重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	不登校の子どもがいない		年度	平成27年度
			責任部長	教育文化部長
			主担当課長	学校教育課長
施策名	不登校の児童生徒を減らす	No.36	関係課	青少年育成課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
学校が楽しいと感じている子どもの割合（%）		↗	86.0	89.0	89.2	84.9	87.0	85.4	89.4
			85.4	89.7	86.6	84.3			92.3
不登校の子どもの割合（%）	①小学校	↘	－	－	－	－	－	－	－
			0.35	0.33	0.50	0.72			0.25
	②中学校		－	－	－	－	－	－	－
			4.05	3.20	3.88	4.00			2.75

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

国際化、高度情報化が進む変化の激しい時代にあって、少子高齢化、両親の離婚や生活の困窮といった家庭環境の変化、規範意識の低下など様々な問題が起きている。こうした中で子どもたちの学習意欲、学力・体力の低下、また、いじめ・不登校、非行・問題行動など解決すべき多くの課題が指摘されている。
全国的に不登校の割合は増加している。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	C 悪化傾向	「学校が楽しいと感じている子どもの割合」は、中間目標値を下回ったものの、高い数値で推移している。「不登校の子どもの割合」の値は、平成24年度と比べると小学校では増加、中学校では微減している。小学校は平成25年度から増加が続き悪化傾向にある。中学校はここ10年間は4%付近を横ばいに推移しており、停滞している。よって、小中学校をあわせると悪化傾向にある。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
不登校になった子どもの悩みや不安が軽減し、自分の居場所を取り戻している。	学校生活に不安や楽しくない思いを抱えている子どもが早期発見されている。		
一宮市スクールカウンセラー配置事業	不登校対策推進事業		
心の教室相談員配置事業	いじめ対策推進事業		
子ども・若者総合相談事業	学級生活調査委託事業		
教育支援センター運営事業	夢を育む教育活動推進事業		
	豊かな心を育てる活動推進事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果は、不登校を減らすための事前予防と事後対応に分けており、モレもダブリもない。 平成27年8月に文科省から発表された学校基本調査の速報値によると、一宮市だけでなく全国的に不登校の割合が増加しており、不登校の割合の増加は全国的な傾向であるといえる。また、「学校が楽しいと感じている子どもの割合」は若干の減少があるものの高い数値で推移していることに注目すると、「学校が楽しい」という気持ちは「学校に行きたい」「学校に居場所がある」ことにつながると考えられ、不登校の割合に表れてはいないものの、「不登校の児童生徒を減らす」ことに向けて各校の取り組みは継続できているといえる。
次年度の改善計画	不登校児童生徒数に増加傾向がみられる小4と中1の保護者を対象に、この時期の子どもの特徴や子どもへの接し方、不登校の相談窓口などを伝えるリーフレットを作成・配布し、早期相談・支援につなげられるようにする。また、不登校対策主任者会の研修会で取り上げる事例を小4と中1に重点を置き、教師の対応力の向上を図る。さらに、教育支援センターの相談窓口を広報する取り組みを進めていく。

＊＊＊